

## 未来に希望をつなぐ

牧野直子

### 拡がる気候危機

今、世界中のあちこちで自然災害が同時多発的に起きています。北極の氷が溶けてホッキョクグマが餓死したり、森林火災が世界の至るところで同時発生し、何億という動物がその犠牲となっています。また海水温が上昇したために豪雨災害が世界中で起きています。日本でも熊本の球磨川や山形の最上川が氾濫し、多くの地域に浸水被害が出ました。犠牲になられた方に心からご冥福をお祈りします。

### コロナ禍から見てきた安倍政権の迷走

一方では新型コロナウイルスの蔓延という全く予期しないことが今年に入って起こりました。一旦収束に向かうかに見えたのですが、再度感染が拡大し、先が見えなくなってきました。このウイルスはとてもしたたかで、人体の中に入って進化していくようです。そのための対策会議が政府でも開かれていますが、その対策はいつも後手後手のようにみえます。一方で教育現場の意見も聞かずに唐突に全国の学校を休校にしたときは多くの混乱を招きました。また市場にマスクが出始めた頃、布マスクを各家庭や施設に配った安倍政権のやり方も多くの失笑を招きました。「GoToトラベルキャンペーン」は二転三転。どうみても失政です。

### 政治の役割とは？

「国民の命を守る」のが一番の政治の果たす役割のはずですが、どうやら日本の政治は経済を再生させることが一番の目的のようです。昭和から平成にかけて大生産地から大消費地に向かっての巨大な物流の流れをつくり、そしてそれがさらにグローバル化しました。それに歯止めをかけたのが今回のコロナ騒動です。

一方で日本ではかつての小泉政権のときに、「小さな政府」をうたい文句に、それまでは全国で860カ所あった保健所の数を半減したそうです。今回、PCR検査をなかなか実施できなかったのはこのような行革の結果でもあったのです。命にかかわる部署

が縮小されたことの弊害が今回の新型コロナウイルス騒動ではっきり見えてきました。また民営化の弊害も見えてきました。今こそまっとうな政治が求められています。

### コロナウイルスが気づかせてくれたこと

コロナ禍で多くの経済活動がストップし、おかげで(?)空気がきれいになり、見えない遠くの景色が見えてきたそうです。コロナによって今まで気づかなかったことに目を覚まされた思いです。

今回の結通信特集では、はがきに込められた多くの方々の気づきの声が聞こえてきます。毎日毎日の生活の大切さ、そして今のぜいたくな生活に自重を呼びかけるメッセージと受け止めた方、また「遠出ができないので地域で助け合うことの重要性を再認識した」という声も。文字にすることであらためて気づくこともあります。

そして「グローバル社会からローカル社会へ」「使い捨て社会から資源循環型社会へ」自然への畏敬の念を忘れずに、ゆっくりと命を育てていくことが次世代に希望をつなぐことになるのではないのでしょうか？

### 箕面のまちづくりの理念は？

箕面では8月の選挙で新しい市長と23名の議員が決まりました。これからの市政の動きをしっかりと見ていきたいと思えます。今まで以上に待たないで持続可能なまちづくり(SDGs\*)が求められています。そのための具体的な方法を提案し、実践していきましょう。そのことが未来へ希望をつなぐことになるでしょう。

\*SDGsとは「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称



(イラスト：箕面5丁目 板橋 悦子)

NO.45 巻頭のページに誤りがありましたので訂正します  
人類は誕生からたかが **1** 万年。→たかが **3** 万年。